【国語(書く領域)・中 1・「筋道を立てて『根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く』」】①

育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを 使うことができる。 (2)イ

(思、判、表等) 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 B(1) ウ (学びに向かう力、等) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合 おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

レポートを書く活動の考察を記述する場面で、学習支援ソフトを活用して自分の考えとそれを支える根拠の繋がりを生徒間で共有する。

【つかむ】

単元の課題を共有し、学習の見通しをもつ。

6年生に向けて、生活を見直せる ような、根拠を明確にしたレポート を作成する。

【追究する】

収集した情報から自分の考えを 裏付ける資料を選択し、根拠を 明確にしながらレポートを書く。

【まとめる】

観点に沿ってお互いのレポートを 読み合い、相互評価した後、学 習を振り返える。

事例の概要

○学習支援ソフトを活用して、観点を明確にした上でお互いの考察と根拠の適切さに ついて検討する。

【事例におけるICT活用の場面①】

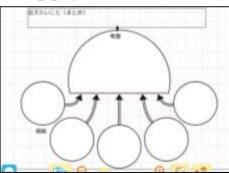
○学習支援ソフト上に思考ツールを活用したレポートの構成メモを作成することで、追記や修正を容易に行うことができる。

【事例におけるICT活用の場面②】

○大型提示装置や手元のタブレットを活用して構成メモを可視化して生徒間で共有することで、考察と根拠をつなげるための観点について視点が明確化する。

【国語(書く領域)・中 1・「筋道を立てて『根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く』」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

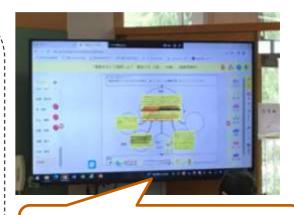


前時に思考ツール を活用して作成した 構成メモの修正や、 加筆を行った。



構成メモを修正するためのモデルを示し、自分が伝えたいことと考察をつなぐための根拠を検討するための視点として、以下の観点を共有した。

- ①考察を裏付ける根拠となっているか
- ②根拠の過不足はないか
- ③相手(6年生)に理解できる根拠か



電子黒板で修正した部分を提示し、修正の観点を共有した。

【事例におけるICT活用の場面②】





修正の観点を基にして、各自の構成メモをグループで見直し、助言を受けながら加除修正を行った。

レポートの説得力を高めるために、根拠が重要がが、根拠が重要がいることは理解している切りでではないでは、自分がである。 さのかにでは、自分がでいるのかにでは、自分がでいた。 は、専門的なことが有いた。 き見を引用することが有いた。 き見を引用することがあることがのからもまる。 さいた。 さいたいた。



【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト
- •電子黒板
- ・思考ツール